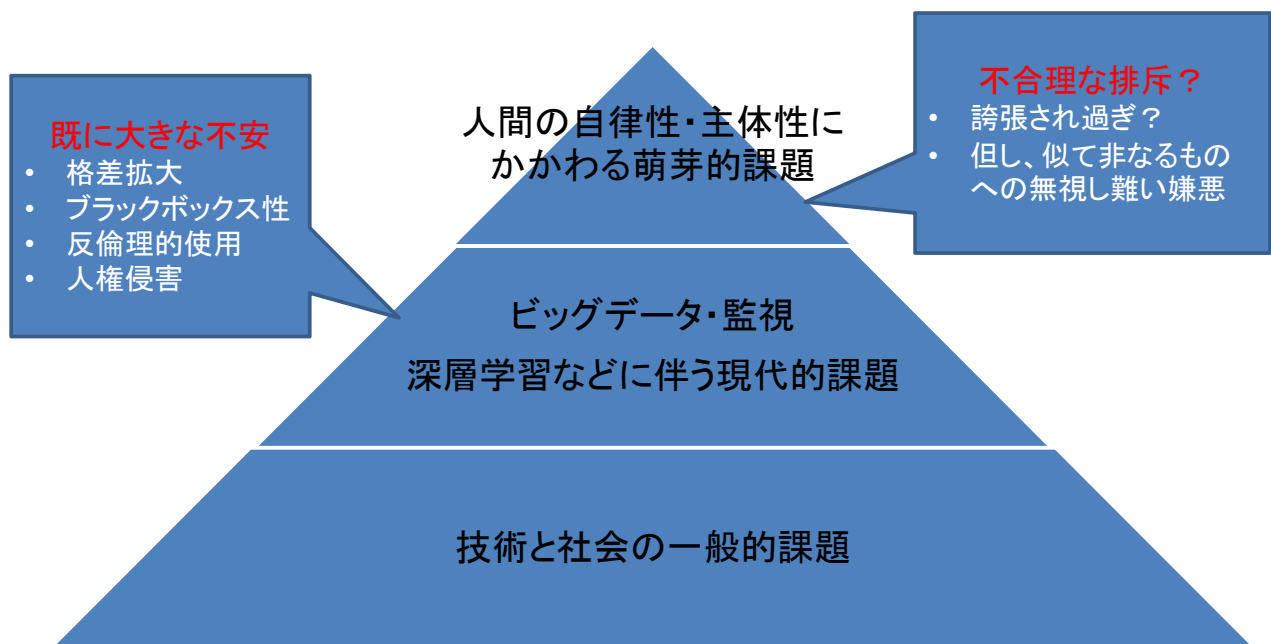
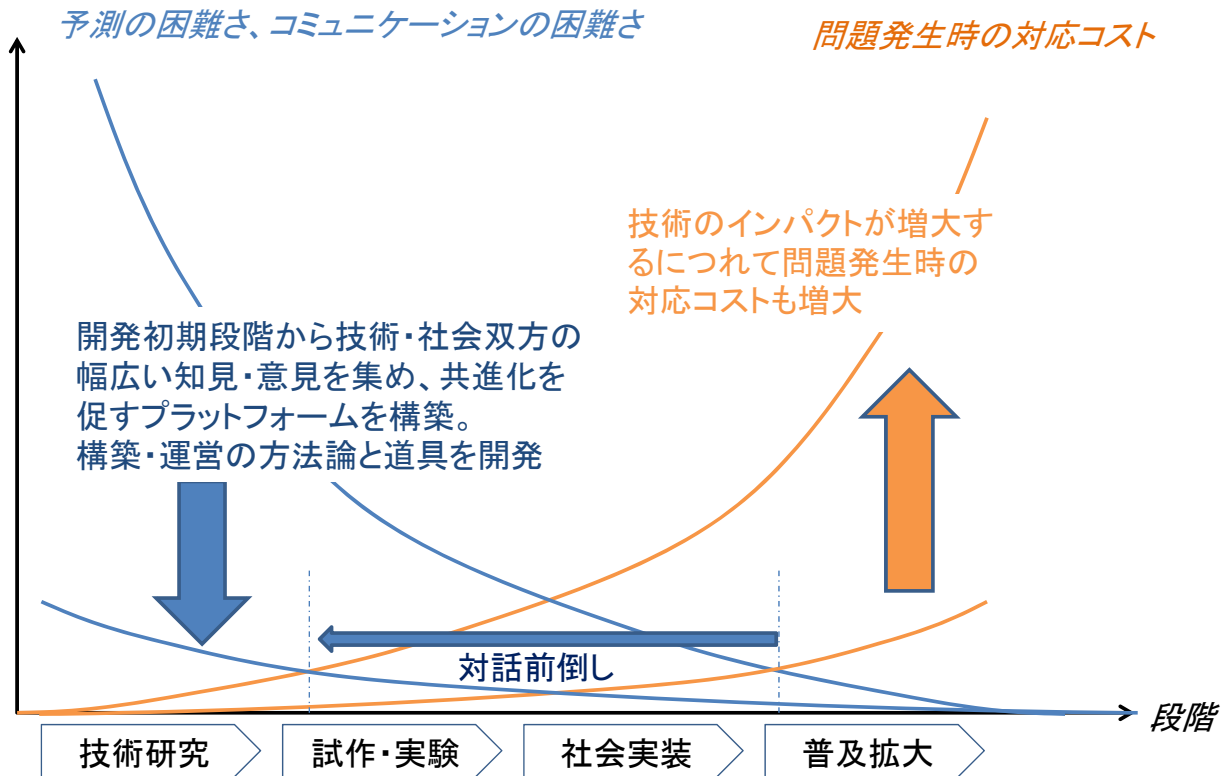


## 研究開発領域の必要性

- IoT、ロボット、人工知能といった情報技術は、社会に新たな大きな変化をもたらさうる。
- 現時点ではその潜在的なメリットと負のリスクが明瞭ではない「萌芽的技術(emerging technology)」の段階である。



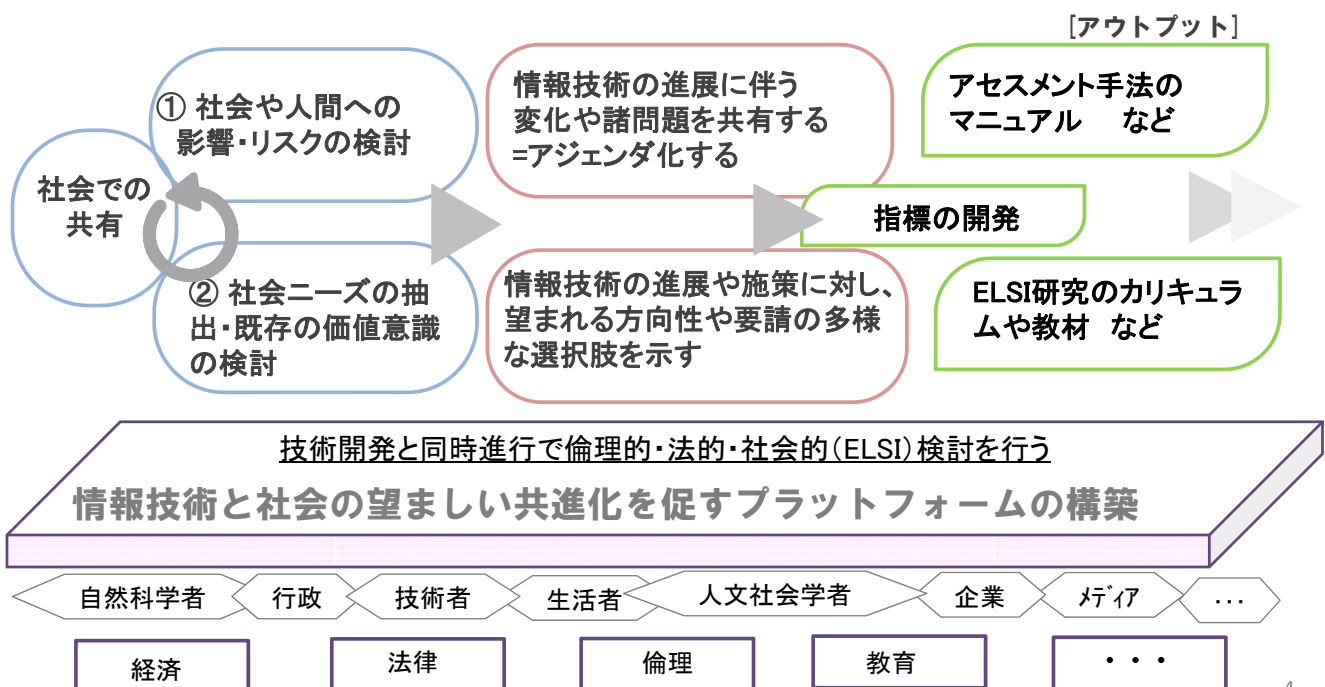
# インパクトが大きくなる中で 人文・社会科学と技術の対話が重要



3

## 「人と情報のエコシステム」領域の目標

- 情報技術と人間のなじみがとれている社会を目指すために、情報技術がもたらすメリットと負のリスクを特定し、技術や制度へ反映していく共進化プラットフォームの形成を行う。



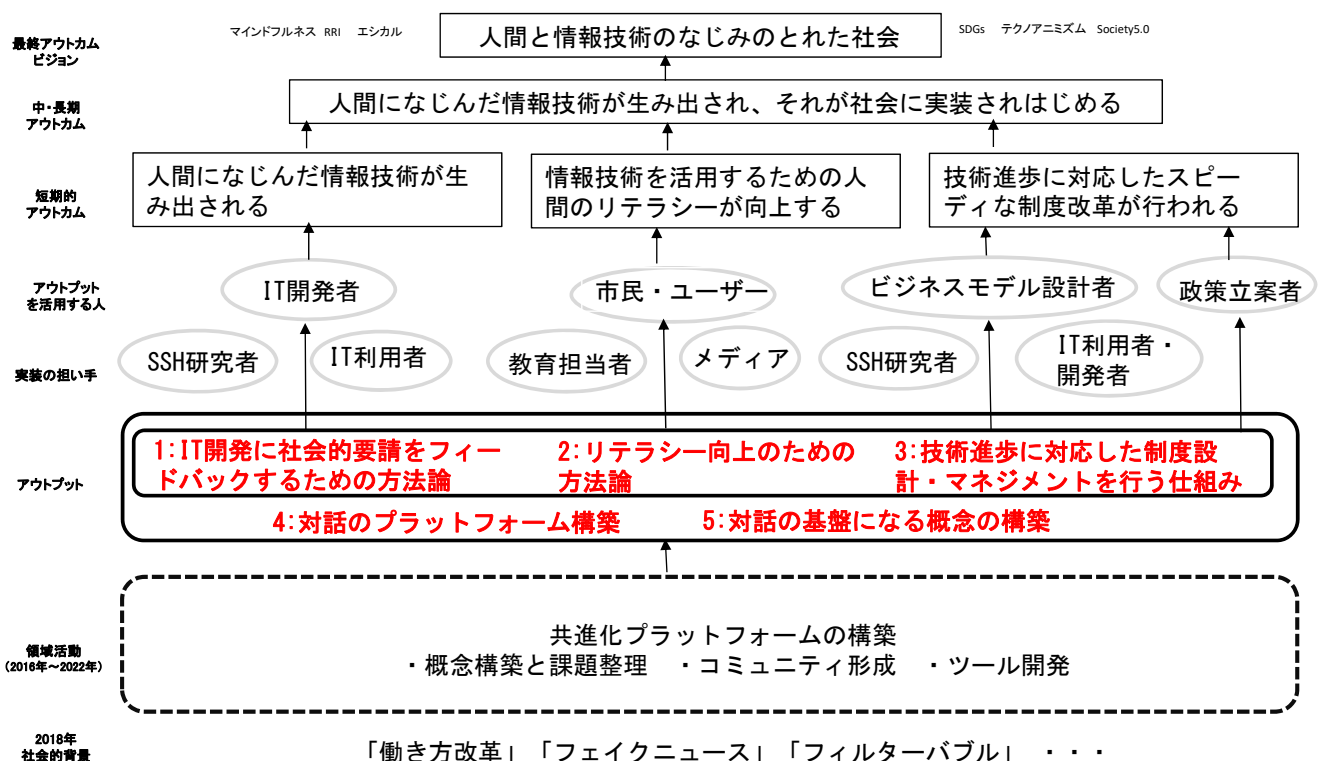
4

# 本研究開発領域の研究対象

AIなどの情報技術を使った機械が、製作者たる人間の直接的介在なく自律的に学習・判断・自己再生産などを行うと考えられる範囲が拡大しています。これにともなって、本領域の対象は「機械と人間からなるシステムにおける人間の役割の根本的再検討が求められるようになってきていることに伴う社会的課題への対応」とすることとします。

なお、「製作者の意図から独立した機械の自律性は存在するのか、そもそも自律性とは何か」といった根源的な問いについては、否定する議論、肯定する議論を含め様々な議論が存在します。このような問いに関する概念の構築や、その技術的・社会的含意の検討も本領域の対象に含まれるものとします。

# 本研究開発領域が目指すアウトプット



# 研究開発領域総括・アドバイザー（2018年5月現在）

役割	氏名	所属機関	役職
総括	國領 二郎	慶應義塾大学 総合政策学部	教授
総括補佐	城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科	教授
AD	加藤 和彦	筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻	教授
AD	久米 功一	東洋大学経済学部総合政策学科	准教授
AD	河野 康子	一般財団法人 日本消費者協会	理事
AD	砂田 薫	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター	主幹研究員
AD	土居 範久	慶應義塾大学	名誉教授
AD	西垣 通	東京経済大学 コミュニケーション学部	教授
AD	信原 幸弘	東京大学大学院総合文化研究科	教授
AD	松原 仁	公立はこだて未来大学	副理事長
AD	丸山 剛司	中央大学理工学部	特任教授
AD	村上 文洋	株式会社三菱総合研究所 社会ICTイノベーション本部 ICT・メディア戦略グループ	主席研究員
AD	村上 祐子	立教大学理学部	特任教授 <sup>7</sup>

## 採択プロジェクト・企画調査 一覧

（赤字がH29年度、黒字がH28年度採択）

①IT開発に社会的要請を フィードバックするための方法論	②リテラシー向上のための 方法論	③技術進歩に対応した制度設計・マネジメントを行う 仕組み	④対話のプラットフォーム 構築	⑤対話の基盤になる概念 の構築
<b>小長谷PJ</b> 分子ロボット技術の影響評価とあるべき技術開発のあり方の検討	<b>尾藤PJ</b> AI時代を幸せに生きるための人間のあり方とAI利用についての検討	<b>田中PJ</b> 幕即に基づいたAIの評価と技術開発へのフィードバック		<b>葭田PJ</b> 人間とシステムがなじんだ状態での主体と責任はどちらにあるかを心理学・脳科学から検討する
<b>標葉PJ</b> 情報技術のテクノロジーアセスメントと情報発信のあり方の検討		<b>鷲田PJ</b> 情報社会の変化シナリオの作成とマーケティング現場の課題の抽出		<b>浅田PJ</b> 自律性のレベルに応じたAIを法的モデルとして定式化し、理想的なAIのモデルを提示する
<b>江間PJ</b> 技術開発に多様な価値観からの意見をフィードバックする仕組みを開発する		<b>新保PJ</b> 情報技術の影響評価と新しい社会制度の提言		<b>松浦PJ</b> 自律システムが浸透する社会における責任概念の哲学的視点からの検討
<b>安藤PJ</b> 日本的文脈における心の豊かさをサポートする技術開発の設計指針				

# 採択プロジェクト・企画調査 一覧

(赤字がH29年度、黒字がH28年度採択)

①IT開発に社会的要請をフィードバックするための方法論	②リテラシー向上のための方法論	③技術進歩に対応した制度設計・マネジメントを行う仕組み	④対話のプラットフォーム構築	⑤対話の基盤になる概念の構築
<b>小長谷PJ</b> 分子ロボット技術の影響評価とあるべき技術開発のあり方の検討	<b>尾藤PJ</b> AI時代を幸せに生きるための人間のあり方とAI利用についての検討	<b>田中PJ</b> 霧即に基づいたAIの評価と技術開発へのフィードバック		<b>葭田PJ</b> 人間とシステムがなじんだ状態での主体と責任はどちらにあるかを心理学・脳科学から検討する
<b>標葉PJ</b> 情報技術のテクノロジーアセスメントと情報発信のあり方の検討		<b>鷲田PJ</b> 情報社会の変化シナリオの作成とマーケティング現場の課題の抽出		<b>浅田PJ</b> 自律性のレベルに応じたAIを法的モデルとして定式化し、理想的なAIのモデルを提示する
<b>江間PJ</b> 技術開発に多様な価値観からの意見をフィードバックする仕組みを開発する		<b>新保PJ</b> 情報技術の影響評価と新しい社会制度の提言		<b>松浦PJ</b> 自律システムが浸透する社会における責任概念の哲学的視点からの検討
<b>安藤PJ</b> 日本的文脈における心の豊かさをサポートする技術開発の設計指針	「分子ロボット」技術のテクノロジーアセスメント		「責任・主体」をめぐる法・哲学・心理学からの検討	

9

## 公募スケジュール

提案  
×切り

6月13日(水) 正午

書類選考	6月～8月
面接選考	8月21日(火)または8月22日(水)
選考結果の通知・発表	9月中(予定)
研究開始	10月1日(月)(予定)

■ 問い合わせ先: 国立研究開発法人科学技術振興機構  
社会技術研究開発センター企画運営室 募集担当

E-mail: boshu@jst.go.jp Tel: 03-5214-0133

10